

平成30年度学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

平成30年度の取組の概要

学 校 名	角田市立角田小学校	主な取組教科	国語科/算数科	
研 究 主 題	自ら考え、表現し、学び合う児童の育成 —対話的な活動を取り入れた授業づくりを通して—		研究年次	2 / 3年次

1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
国語科・算数科において、課題解決や思考の深化を目的とした「対話」を、有効なものにしていくための具体的な手立てを模索した。	「対話」を取り入れた授業づくりに協働で取り組み、研究授業の成果と課題を積み重ねながら、「対話」を有効なものにする様々な手立てが提案された。	「Which 型の発問」「不安定な教材の提示」「対話中に論点を示し、話し合いを焦点化させること」「誤答の修正点を論点にすること」など、複数の手立てが提案された。
算数科の学習を補充する授業以外の学習活動（算数オリンピック、パワーアップタイム、週末課題を生かした放課後学習）を充実させた。	算数科における個に応じた指導を行うことができ、基礎・基本の定着が図られた。児童の努力や成長を励ます機会が増え、学ぶ楽しさを味わわせることができた。	全校児童 654 名に対し延べ 600 名（91%）が算数オリンピックに参加した。放課後学習では、全教員が指導に当たり、児童の基礎・基本の定着を図った。
学習規律の改訂及び共通理解、学力向上成果普及教員や全国学力・学習状況調査を生かした授業改善の研修、大型モニター全教室設置による ICT 活用研修等を行った。	学年や担任が変わっても全校で統一した指導を継続でき、学習規律の徹底が図られた。授業改善、ICT に関する研修を行うことで、教師の意識改善が図られた。	学級づくり、miyagiTouch 活用に関する研修を年度始めに3回、授業改善に関する校内研修を3回実施した。また、OJT を工夫し日常的にも学び合う機会を設けた。
研究成果の検証方法を改善し、児童一人一人の学力の変容を捉えられるようにした。	年2回実施する意識調査の項目を精選したり、学力調査結果の評価方法を新たに作成・活用したりしたことで、児童の学力状況と経年変化を把握できた。	「5つの提言『理解 継続 自校化』」の中で、教師と児童の「意識の乖離」が見られる項目の活用や、学力調査の結果から「総合学力調査一覧表」を作成し、検証した。

2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
「対話」に必要感や必然性を持たせるために、学習課題（問題）の難易度や教師の発問・揺さぶりなどについて、今後検討が必要である。	教材研究を通して、児童の反応を想定しながら、どの程度の（難易度の）課題を設定するのが適切かを考慮し、授業づくりに取り組んでいく。
「対話」によって生じた多様な考えを生かして、児童の「深い学び」につなげるにはどうしたらよいか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「深い学び」の捉えを明確にし、具体の姿を示す。 ・考えを深めさせるための発問の吟味や、多様な考えの生かし方を模索する。

◆角田市立角田小学校 研究関連 URL : <http://www.kakuda-c.ed.jp/kakuda-es>